



FAT FIVE RACING 斎藤太吾 WORK

ファットファイブレーシング・GRスーパーの装着ホイールは、D1GP P2021開幕戦まではワーク・エモーションCR3Pだった。ところが、第7戦伊吹から変更されていることに気づいたひとは少ないだろう。鋭いひとだと「ZR10になった?」と答えるかもしれないけど、じつはこのホイール、市販品ではなく太吾スペシャルだった!



10本スポークは
軽量・高剛性の象徴なり!

10本スポークだから、すっかりワーク・エモーションZR10に変更したのかと思ってたんだけど、たしかによく見るとステップリムだし2ピイスだ。しかもディスクには「フォージド(鍛造)」の刻印もある。
まさかの新作投入か! と思ったら、斎藤選手いわく「ワークさんをお願いして軽く製作してもらったんですよ」とのこと。つまり、D1マシン用に作った特注品ってことらしい。
これまで使っていたエモーションCR3Pは、フロント19インチ/リヤ20インチの大径だからそれなりに重いワケで、もっと軽いホイールを

作ってもらえないかと相談したところ、用意してもらったのがこのホイールなんだって。
鍛造ディスクにステップリムを組み合わせたこの2ピイスホイールは、スポークのサイド面の肉抜きや2ピイスの溶接部分の処理も丁寧で、重量を徹底的に削ぎ落してあった。その結果、エモーションCR3Pとくらべて1本あたりフロント3.5キロ、リヤ4.5キロの軽量化に成功! 斎藤選手が、ワーク・エモーションのデカールを貼ってくれてるのでZR10に見えちゃったかもしれないけど、プロトタイプのような位置付けなんですよ」と、ワークの吉川さん。「軽量化したうえでディスクに縦横

勝つための

飽くなき追求



肉抜きで極限まで軽量化!
鍛造ピレット削り出しにより、スポークのサイド面は大きく削り落とされている。スポーク先端も飾り気のないストレートな落とし込み形状になっていて、ムダを徹底的に省いた極限の軽量化が施されているのだ。ディスクカラーはカラリズムのエナジーイムグリーン。

リムは市販のステップリムを使用!
エモーションCR2PやT5R2Pなどに採用されているワーク・ソリッドリムを、太吾スペシャルにも使っている。19&20インチだけディスクがワンサイズ小さくなるため、より軽量化に作れるステップリムを選択した。市販部品でありながら、D1GPで戦うスペシャルホイールとして耐えられる剛性があるのだ。



エモーションCRの鍛造バージョンも!
こちらは東京オートサロン2020にて展示されていた、エモーションCR鍛造バージョンの試作品。ワンピイスだしスポークの削りかたがダイゴスペシャルとはちがっているけど、こうしたレーシングホイールを製作するノウハウが市販品にフィードバックされているワケだね。



第1&2戦まではCR3Pだった!
今年の開幕戦での装着ホイールは3ピイスのエモーションCR3P。レーシングシーンでは1ピイスが多いし、ブロンズアルマイトのリムアレンジメントもあってひととき目立っていた。これはこれで「ドリフトはルックスも追求する」を体現している人気だったと思う。

D1GPオートポリスで 19&20インチの 太吾スペシャル投入!



ブロンズのリムがボディ色に映える!
ファットファイブに展示されているフロントミッドシップどころの搭載位置じゃない2JZ載せ替え&左ハンのスカイラインには、ワーク・エモーションCR3Pを装着。マルチピイスだから選べるブロンズアルマイトリム、そしてゴールドピイスという組み合わせがゴージャス感あるよね。



ウッチーの勝利を支えたのがZR10だ!



第3戦で優勝した内海選手が履いていたのはエモーションZR10でカラーはアズールホワイト。

の剛性を出すにはスポーク数は多いほうがいいんです。だから10本スポークになるのは必然でしたと言うように、放射状の10本スポークはワークがホイールを供給する他のレーシングカーでも採用されている。スカタゴリーでは定番のデザインになっている。実際のところ、2015年のスーパーGT300クラスでシリーズ優勝したGAINER TANAX GT-Rが履いていたワーク製ホイールは10本スポーク。その系譜に連なる斎藤選手が使っているホイールは、ワークのレーシングテクノロジが投入されたビューアレーシングホイールといっている。ちなみに、このホイールには名称がないし市販化もいまのところ未定。だけどとっと近い将来、このテクノロジは市販モデルにフィードバックされずばずだ。